

**重点課題**

**【課題1】**  
漢字を文の中で正しく使う設問において、正答率が6.6ポイント下回っている。学習した漢字を文の中で、正しく使う力が弱い。(設問3三(1)言葉の特徴や使い方に関する事項)(正答率63.9%)

**【課題2】**  
目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、条件に合わせて要約する設問における正答率が全国平均より13.5ポイント低い。文章の概要を読み取り、要約する力が付いていない。(設問2四読むこと)(正答率16.2%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)**

**【課題1】**

- 文章を視写する活動を取り入れ、文の中での漢字の使い方を身に付けさせる。
- 国語辞典を使って意味を調べる活動を積極的に取り入れる。

**【課題2】**

- 目的に応じて中心となる語や文を見付ける練習を短い文から段階的に取り組ませる。また、条件に合わせて文を書く活動を設定する。
- まとまった量の読書をする時間を確保し、読書量を増やす。

※ 小中一貫した取組については、どの教科でも条件を付けて記述で表現させる活動を取り入れる。複数の資料から、目的に応じて必要な情報を選択して表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。

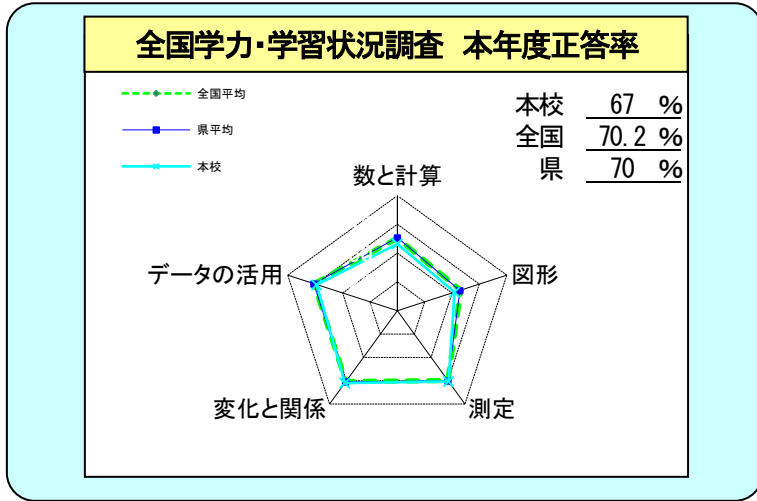
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年「標準学力調査」		5年・小テスト R3「全国学力」	全学年市販テスト平均点
目標値				全国平均以上		70%	80%
実施後数値				-8.6%		67%	84%

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年「標準学力調査」		5年・小テスト R3「全国学力」	全学年市販テスト平均点
目標値				全国平均以上		30%	80%
実施後数値				-8.6%		21%	84%

**来年度に向けて**

定期的に漢字ミニテストを実施し、漢字の定着度を確かめながら漢字を覚えさせる。

また、授業において、目的に応じて情報を活用する単元を充実させることで、表現力を高めていく。



**重点課題**

【課題1】 三角形の面積を求める公式の理解，三角形の底辺と高さの位置関係の理解をしているかどうかをみる問題の正答率が低い。(設問2)(1) 図形) (正答率 37.8%)

【課題2】 帯グラフで表された複数のデータを比較し，示された特徴をもった項目とその割合を記述できるかどうかを見る問題の正答率が低い。(設問3)(4) データの活用) (正答率 43.2%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

【課題1】・授業の中で出てきた用語や公式を，具体的な図や場面と関連付けて表現させることで定着させる。  
・図形の授業では，図形を回転させる等実際に操作しながら，底辺と高さの位置関係(垂直関係)をとらえさせるようにする。

【課題2】・各教科等を通して，授業の中で資料を正しく読み取る場面を多く取り入れる。  
・授業の中で，自分の考えを整理して，ペアトークなどで説明する機会を取り入れる。

※ 小中一貫した取組については，自ら課題を見付け，習得した知識・技能を活用したり，図と式を関連付けながら根拠を挙げて説明したりする活動を通して，数学的な思考力・判断力・表現力を高める。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年「標準学力調査」		5年・小テスト R3「全国学力」	全学年市販テスト 平均点
目標値				全国平均以上		60%	80%
実施後数値				-9%		55%	80%

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				全学年「標準学力調査」		5年・小テスト R3「全国学力」	全学年市販テスト 平均点
目標値				全国平均以上		60%	80%
実施後数値				-9%		52%	80%

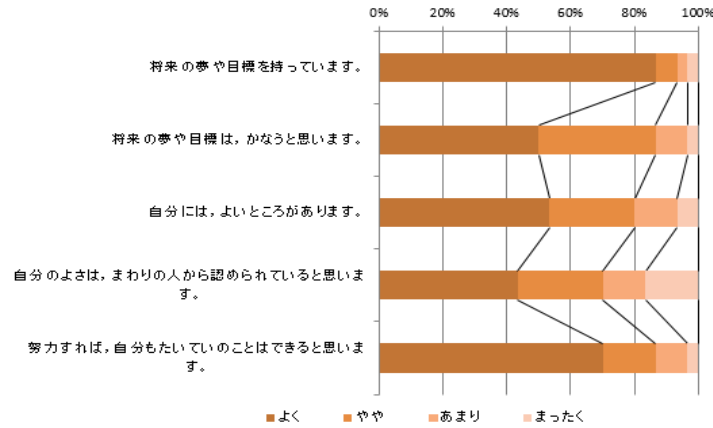
**来年度に向けて**

公式を使って解く，図形をかく際には意味理解を大切に，基礎的な問題に繰り返し取り組ませて，確実に定着させる。  
また，図と式を関連付けながら根拠を挙げて説明する活動を取り入れ，表現力を高めていく。

質問紙調査（全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査）（児童生徒学習意識等調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

自己実現力・自己効力感

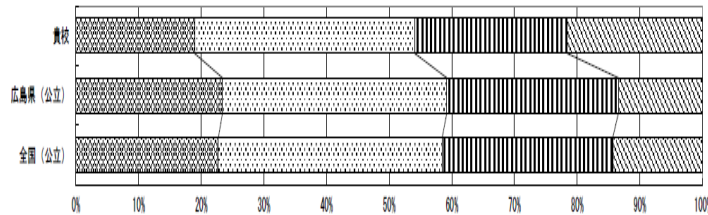


	児童の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	児童生徒学習意識調査において、「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の質問でよく当てはまるとやや当てはまるに回答した児童の割合は70%であり、自己実現力・自己効力感の項目の中では低い。	縦割り班活動で、それぞれの学年に応じて役割をもたせることで、どの学年の児童も主体的に取り組むことができるようにする。また、他学年の児童の良いところを見つけ、見つけたことをメッセージに書き渡し合う活動を通して、自己肯定感を高める。	5年	75%	児童アンケート	12月	82%

(2) 教科

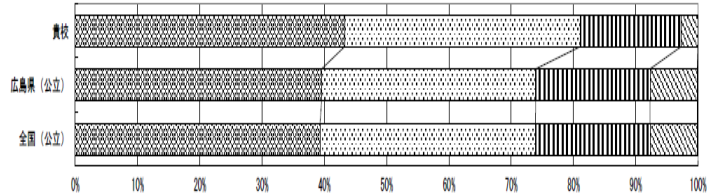
国語の勉強は好きですか。

01. 当てはまる 02. どちらかといえば、当てはまる 03. どちらかといえば、当てはまらない 04. 当てはまらない ■その他 □無回答



算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

01. 当てはまる 02. どちらかといえば、当てはまる 03. どちらかといえば、当てはまらない 04. 当てはまらない ■その他 □無回答



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
全国・学習意識等	全国学力・学習状況調査において、「国語の勉強は好きですか」の質問項目に肯定的に回答した児童の割合は、54%である。	児童の興味・関心を把握し、児童自らが課題意識をもてるような導入をすること、文章から自分なりの答えや根拠を見つけて、表現したり、共有したりする体験を積ませることで、達成感や自分の成長を感じさせる授業をする。	6年	60%	児童アンケート	12月	88%
全国・学習意識等	全国学力・学習状況調査において、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問項目に肯定的に回答した児童の割合は、81%であり、他の項目より低かった。	児童にとって、切実感のある課題設定を行うとともに、学習後の振り返りで「もっと聞いてみたいこと、調べてみたいことはないか」「身の回りのことで今日の学習とつながりのあることはないか」などの振り返りの視点を提示して書かせる。	6年	85%	児童アンケート	12月	97%